

令和7年3月定例会

ゴミを出さない資源循環型社会の構築を

p-2の要望

古布の資源循環 政策実現

古布回収の推進と資源循環で廃棄物がよみがえる。

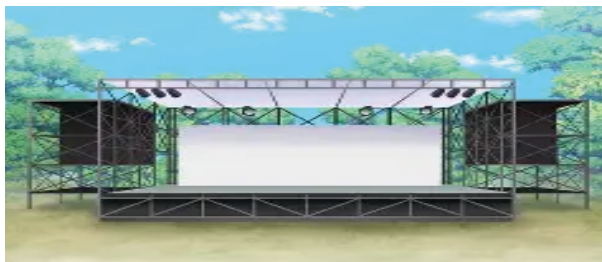


長年の政策提言が一昨年実現し、知立市内17か所に古布の回収ボックスが設置されました。多くの方々から「着なくなった衣料などが手軽に出せて助かる」と好評です。可燃物の排出量も大きく削減され、環境にもよく再生品は車の防音材や免振材にも使われています。

※岡崎の古布の回収事業所様へのご依頼が実り、知立市の古布の回収システム作りが実現しました。

知立らしい魅力ある街づくりを

明治用水で市内小学校の児童がカキツバタを育てている。知立市の世界的に有名な園芸家の指導によるもの。市の花の小学校児童による育成事業により、2027年横浜で開催の国際園芸展にチャレンジし知立市のPRを。



知立駅前広場へ多目的ステージを設置し企業PR、農産物直売、文化イベント、交流事業など小さい街のならではの魅力と良さを発信し、知立のファンづくりを進め交流人口を増やす取り組みを。

令和7年6月定例

商店街の衰退は地域社会の疲弊に。街路灯が危機に。

近年個人店、個人企業の衰退、廃業による地域社会への影響は大きい。全国的に商店街などが運営する街路灯は、明るい街づくりには不可欠な設備だが、維持管理が徐々に困難になりつつある。地域経済を支える個人点や企業の事業承継や商店街の運営事業支援が必要。



不登校児童生徒に寄り添った支援の充実を。



不登校児童の増加は学校教育の問題を象徴化している。令和4年度から5年度にかけて、全国で不登校児童生徒は約5万人増。知立市も例外ではない。不登校児童、生徒の居場所づくりや、学び方についても多様化し拡充しているが原因は様々。個々の意見を聞き取り、現状に合った支援とスクールソーシャルワーカーの活用で根本的な解決を。